
正しい平和の壊し方 ~Just a Breaker or Crazy Brave?~

江角 稚

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ
テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または
は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ
ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範
囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し
ます。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

正しい平和の壊し方 ↗ Just a Breaker or

Crazy Brave? ↘

【Zコード】

N6184Z

【作者名】

江角 稔

【あらすじ】

起承転結の”転”に当たる部分です。

”作り方”、”守り方”に続く急転直下をお楽しみ下さい。

(前書き)

愛着が湧いて来たので、一人の勇者様に名前が付きました。

名付け親？

．．．勿論、私、江角です。

ある日の昼、勇者様のお一人は図書館で鉢合せました。

「ちょっと、話をしないか?」

「激しく同意。勇者様のお誘いとあらば」

彼は世界に平和をもたらした時と回りよって、答えました。

「カイル。お前、その台詞好きだな…」

「激しく同意」

一人は笑いました。

司書に睨まれるまでは。

静けさ溢れる図書館では、騒ぐことはおろか、大事な話も出来ません。

二人は外に出ました。

「…で?どうかしたのか」

激しく同意、以外の台詞で彼は問います。
そうでないと、会話は成立しませんから。

「いや…平和になつて、良かつたな、と」

勇者様は、勇者様ならぬ口調でほのぼのと言いました。

「争つてたら、今頃魔王退治だよ」

「そうだな。良かつたと思うよ、俺も
もう一人の勇者様も答えます。

「それなら、俺は今頃殺人鬼かもな」

「そつちの魔王も酷いな。”人間共を殺せ”だつけ?」

「ああ。でも…平和になつて、良かつた」

先程カイルと呼ばれた勇者様は、笑顔で答えます。

「激しく同意」勇者様は相手の台詞を奪い、

「それは俺の台詞だ」もう一人の勇者様は、相手を奪めました。たしな

一息ついて、勇者様はぽつりと呟きます。

「でも…犯罪は減らないな。俺が魔王を倒さなかつたせいではない
けど」

「そうだなあ。こればかりは、仕方ない。住民も魔物も、心に悪
を持った者同士だから」

彼等は苦笑いをします。

「その通り、だな」

「…そう言えば、この前殴り合いがあつたって聞いたな。平和にな
つたはずなのに、まだまだ物騒な時代だ」

「「」んな世界を、俺達は必死で守つてたんだな

「「」なることを、俺達は本氣で望んでいたのかな…？」

「だからこそ、心の悪は憎むべきなんだ」

不意に、彼は言いました。

「どうしたんだよ？ 急に
カイルには、訳が分かりません。
彼が、ムキになる訳が。

そして、勇者様は続けます。
少しずつ、カイルを外に誘つてまで話したかった本題に、会話を近
付けて行こうとします。

「「」の前、魔物の女と結婚するって、言つたら」

「言われたね」

「その女、人間からも好かれてるって、言つたら」

「言われたね」

「それで、決着付ける、つて言つたら」

「…言われたね」

何だか、嫌な予感がしました。

「その…殴り合って、多分、俺達の『』だと」

「……」

何も、言い返せませんでした。

”激しく同意”と言う、彼独特の口癖すらも出ませんでした。

僅かな沈黙が、二人の間を流れ。

意を決したように、彼は口を開きました。

「実はな…俺、」

返答に詰まります。

一体、どうしたのでしょうか？

「…俺、勇者を首になっちゃって」

「…え？」

彼は驚きを、口にしました。

”魔王も殺せず、挙げ句に魔物の女を人間と奪い合ひの勇者なんて、勇者じゃない”つてさ。王に、首にされたよ」

「お前…」

「馬鹿だろ？笑つてくれよ」

勇者様は、疲れ切つた微笑みで言いました。

「だから、俺のことは… もう、”勇者様”じゃなくて”ザイル”って呼んでくれよ」

「嫌だよ、ややこしい。お前は”勇者様”で、俺は”カイル”だ」

「ややこしい…一文字、違ひじゃないか」

「それには、激しく同意」

久々に、彼の口癖が出ました。

「あーあ、勇者を首になるなんて… これじゃ一ートだよ」

「それなら、俺だつて。魔王の手によつて、無理矢理”勇者”の地位に立たされて人間排除をさせられそうになつた、ハリボテ勇者さ

「大体さ…魔物つて、どうして出来たんだろ」
ザイルと云つ、勇者様を首になつた男は言い、

「心を邪悪に染めた人間が、禁術に手を伸ばした反作用で」
カイルと云つ、勇者様もどきの男も言いました。

「…それはお伽話だろ」

「同時に、史実もある」

「 世の中に不思議なものは多い。しかし、不思議がつている人
間の方がもつと不思議だ…」

「 そうだな。人間自体が、魔物に最も近しいと言つのに。世界つて、
まだまだ不可思議なことだらけだよ」
そう言って、カイルは太陽に手を翳す。

手の平が、赤黒く妖しく光る 。

「お前、まさか…」

ザイルは驚いて、彼を見ます。

「俺は…魔物と人間の混血ハーフだよ。血の色が、赤と黒の中間だろ」

カイルは翳した手を、彼に見せます。

「魔物だった俺の母さんは昔、人間の男に犯されたんだ。そいつが、俺の父親に当たる人だ。…これじゃ、どっちが魔物で人間だか、分かりやしない」

彼は言い終えてから、啞然としているザイルに向かつて何か取り繕うとしました。

あまりにも、彼が何も言えずに固まってしまったから。

「な、なーんてな。冗談だよ」

顔は笑つていましたが、その瞳は笑つてなどいませんでした。
本当なのだと、訴えていました。

「俺は、さ」ザイルは言葉を紡ぎ始めました。
「勇者を前にされてから、ずっと考えてたんだ」

「…何を？」
カイルが問います。

彼は、意を決して答えました。

「こんな腐り切つた世界、滅べば良いとすら思えるんだ」

「世界を、滅ぼす？」
カイルは思わず、聞き返します。

「ああ。　この世界に生きるもの全てが、死ねば良いこと思つてゐる」

何も、言わない。
何も、言えない。

それなのに、心の奥底で

”激しく同意”

と叫ぶ、カイル自身の声が聞こえた

気がしました。

(後書き)

・・・話自体が転んだ訳ではありません。
あくまで、起承”転”結の”転”であり、急”転”直下の”転”で
す。
・・・受験生が転んだ転んだ言つなんて・・・。
同じ年の方々、すみません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6184z/>

正しい平和の壊し方 ~Just a Breaker or Crazy Brave?~

2011年12月20日19時51分発行